

\*\*\*\*\*

本メールは日本臨床検査専門医会の電子メール新聞 JACLaP WIRE No.63 です。

\*\*\*\*\*

===== 目次 =====

【お知らせ】

- 【1】会員動向(2003年9月30日現在数 655名, 専門医 468名)
- 【2】平成15年度 日本臨床検査日本臨床検査専門医会総会予定
- 【3】平成15年度 日本臨床検査日本臨床検査専門医会 講演会
- 【4】平成15年度 日本臨床検査日本臨床検査専門医会常任・全国幹事会予定
- 【5】第94回内保連例会について
- 【6】第22回世界病理学・臨床検査医学会連合(WASPaLM)総会について
- 【7】訃報(WASPaLMより)
- 【8】日本臨床検査医学会からPRを兼ねた広報ビデオ放映のお知らせ
- 【9】JCCLS主催 ISO/TC212 WG2 セミナー企画について

【WHOトピックス】

<Press September 2003 WHO-172>

オゾンの減少により小児におよぼす紫外線の悪影響と学校での教育プログラム

【MTJ(The Medical & Test Journal)9月1日号から】

【MTJ(The Medical & Test Journal)9月21日号から】

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-1】

会員動向(2003年9月30日現在数 655名, 専門医 468名)

新入会員

長沼 葉子 先生: 山梨大学医学部臨床検査医学  
畑中 一仁 先生: 関東労災病院検査科

所属変更

河原 邦光 先生: 旧 国立大阪病院臨床検査科病理  
新 大阪府立羽曳野病院 臨床病理検査科  
小林 佳美 先生: 旧 秋田大学医学部中央検査部  
新 医療法人正観会 御野場病院

退会者

川出 眞坂 先生: 高田福祉事業協会付属診療所

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-2】平成15年度 日本臨床検査日本臨床検査専門医会総会予定  
日時：2003年10月28日(火)13時~14時  
場所：広島国際会議場 第2会場(ヒマワリ)

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-3】平成15年度 日本臨床検査日本臨床検査専門医会 講演会  
日時：2003年10月28日(火)14時00分~15時50分  
場所：広島国際会議場 第2会場(ヒマワリ)

パネルディスカッション「全員参加で徹底討論、未来ビジョン」

司会(敬称略)

高木 康(未来ビジョン検討委員会 委員長)  
土屋達行(未来ビジョン検討委員会 副委員長)

パネラー(敬称略、講演1人10分、休憩10分、総合討論40分)

下 正宗(未来ビジョン検討委員会 臨床検査医学教育プログラムWG チーフ)  
船渡忠男(未来ビジョン検討委員会 遺伝子検査標準化WG チーフ)  
市川徹郎(未来ビジョン検討委員会 健診における検査専門医の役割検討WG チーフ  
・広報委員会設置提案WG チーフ)  
谷直人(未来ビジョン検討委員会 臨床検査医による固有の診療科検討WG チーフ)  
村田哲也(未来ビジョン検討委員会 AP/CPの活動支援WG チーフ)  
渡邊 卓(未来ビジョン検討委員会 検査部の経済問題検討WG チーフ)

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-4】

平成15年度 日本臨床検査日本臨床検査専門医会常任・全国幹事会予定  
日時：平成15年10月28日(火) 午前9時~11時  
場所：広島国際会議場 第7会場「ラン」

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-5】第94回内保連例会について

第94回内保連例会が9月9日に開催され、内保連(内科系学会社会保険連合)の新代表に社会保険中央総合病院院長の斎藤寿一先生が選出された。

副代表には茅野眞男、川城丈夫、國島修、森三樹雄、守屋裕文、高橋進の6名の先生が選出され、監事に浦部晶夫、石田暉先生が指名された。各学会よりの要望は各関連委員会を通じてまとめ、内保連の要望書を作成することになった。内保連の委員

会は検査関連委員会を含め 16 になった。新たに、日本小児アレルギー学会、日本頭痛学会、日本ヘリコバクター学会が内保連に入会して合計 67 学会になった。10 月上旬～中旬に内保連の要望をまとめ厚労省と日医に提出する予定である。

(内保連副代表 森 三樹雄)

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-6】第 22 回世界病理学・臨床検査医学会連合 (WASPaLM) 総会について

第 22 回 WASPaLM 総会は、8 月 30 日～9 月 2 日に韓国のプサンで開催され、世界 34 か国より 700 人が参加し、伝統的な雰囲気の中で盛大に行われた。

開会式に約 500 名が出席、展示会場は 45 社の出展があり、今回の総会では、ポスター発表 260 題、口演発表 19 題、シンポジウム発表 55 題であった。

理事会と代議員会では各種審議会と委員会の名称の一部変更や削除、委員長および役員人事や会則の一部改定について審議し決定した。今後の活動方針として新しい要覧 (Directory2003-2005) を発行する。

23 回 WASPaLM 総会は、トルコのイスタンブールで 2005 年 5 月 25 日～29 日、24 回 WASPaLM 総会はマレーシアのクアラルンプールで 2007 年 8 月 20 日～24 日に行われる予定である。

(WASPaLM 前会長 森 三樹雄)

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-7】訃報 (WASPaLM より)

1999 年ブラジルのサンパウロで開催された、第 20 回 WASPaLM 会議の総会長であり、WASPaLM 次期会長 Dr. Marilene Melo の夫 Dr. Evaldo Melo が 9 月 5 日心不全で逝去されました。69 歳でした。

また、WASPaLM の名誉会長で本会の発展に多大な貢献をしてこられた米国 Texas の Dr. John J Andujar が 8 月 27 日、心不全のため 91 歳で逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

(WASPaLM 前会長 森 三樹雄)

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-8】日本臨床検査医学会から PR を兼ねた広報ビデオ放映のお知らせ

学会の広報委員会による学会 PR を兼ねた「臨床検査のこころ」のビデオを撮影。

下記のテーマ 5 つはディスカバリー・チャンネル (ケーブルテレビ・スカイパーフェク TV など) にて放映致します。ぜひご覧下さい。

放送期間は、10 月 15 日～11 月 5 日 1 回 / 1 日 120 秒、合計 22 回を予定しております。放送日時は次の通りです。

22 : 57 ~ 59\_ 10/15、18、20、22、26、27、29

21 : 57 ~ 59\_ 10/16、17、19、21、23、24、25、28、30、31

11月の放送日時は、後日お知らせします。

ケーブルテレビの場合、都道府県により見られる放送局が異なりますのでご注意ください。放送局や時間などにつきましては、下記のホームページを確認してご覧になって下さい。

「血清コレステロールについて」	櫻林郁之介教授
「血尿について」	伊藤機一教授
「肥満が原因の病気について」	神辺眞之教授
「アレルギーについて」	茆原順一教授
「腫瘍マーカーについて」	北村 聖教授

放送日時・放送局一覧

<http://www.jscp.org/news/release/releaseID=200310011.htm>

ディスカバリー・チャンネル

URL: <http://japan.discovery.com/index.html>

ディスカバリー・チャンネル視聴方法

URL: <http://japan.discovery.com/guide/index.html>

(獨協医科大学越谷病院臨床検査部教授 森 三樹雄)

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-9】JCCLS主催 ISO/TC212 WG2 セミナー企画について

日本臨床検査標準協議会(JCCLS)が主催となり、「ISO/TC212WG2 セミナー企画 ISO規格キャリブレーターおよびQA用試料の不確かさ評価方法セミナー」を開催致します。本セミナーでは、ISO/TC212のWG2の活動状況と合わせまして、不確かさの評価方法についての実践セミナーとなっております。日本臨床検査専門医会会員も奮ってご参加下さい。

日時：2003年10月24日(金)13:00~17:00

場所：東京シティエアターミナル(株)T-CAT 1階会議室

参加料：一般(18,000円) 主催・後援団体会員(15,000円)

参加申込：日本臨床検査標準協議会までお問い合わせ下さい。

ISO/TC212 WG2 セミナー企画 ISO規格

キャリブレーターおよびQA用試料の不確かさ評価方法セミナー

URL: <http://www.jscp.org/news/release/releaseID=200309012.htm>

===== JACLaP WIRE =====

【WHOトピックス-1】オゾンの減少により小児におよぼす紫外線の悪影響と学校での教育プログラム<Press September 2003 WHO-172>

オゾンの減少による紫外線の増加は小児に多大な悪影響を与える。すなわち小児の皮膚に悪性腫瘍や良性腫瘍、白内障などが紫外線によって惹起されるので、保護しなければならない。WHO と UNEP(国連環境プログラム委員会)は「学校における健康増進のために基本的に太陽光線の防止が必要」という文書を発表し、推奨している。最近の科学的観察によるとオゾン層は少しずつ回復しているが、紫外線の防止についてはこれから先も取り組まなければならない。この資料は「太陽に対する教育プログラムを効果的に行うために学校や先生に対するガイド」、「生徒に実際的な教育をするための資料」、「太陽についての教育プログラムが小学校で効果があるかどうかを評価する資料」の3冊に分かれている。

(獨協医科大学越谷病院臨床検査部教授 森 三樹雄)

===== JACLaP WIRE =====  
MTJ (The Medical & Test Journal) 9月1日号から】

#### シード線源による「永久挿入密封小線源治療」解禁

近年、患者が増加傾向にある前立腺がんの新たな治療法として注目されてきた「シード線源による前立腺永久挿入密封小線源治療法」を、9月にも国立病院の先陣をきって国立病院東京医療センターが導入することが明らかになった。同センターは、院内倫理委員会の承認を得て、関連学会が策定した実施施設基準を踏まえた実施体制を構築している。同治療法は、シード線源(125Iなどの核種を密封した小線源)を早期前立腺がん病巣部に永久に挿入密封することでがん病巣を攻撃していく治療法。

#### JCCLS 改正薬事法で体外診断薬のクラス分類は柔軟に対応

日本臨床検査標準協議会(渡辺清明会長)学術集会が8月23日、順天堂大学で開かれた。今回の学術集会では、シンポジウム「臨床検査におけるグローバルハーモナイゼーション」(企画委員長:中原一彦東大教授)が取り上げられた。そのなかで2005年に施行される改正薬事法について厚生労働省医薬食品局の河原主査は、体外診断薬関連について解説。同省は、8月17日までに改正薬事法政省令案に関してパブリックコメントを募集していた。年内に同政省令の公布を目指す方針。体外診断薬については、現行の大臣承認制度から承認不要の自己認証、第三者認証、大臣承認の3段階のクラス分類に改正される。

## 岩田日臨技会長 次期会長選に不出馬、勇退を表明

日本臨床衛生検査技師会の岩田進会長（日大臨床病理）は8月22日、本紙の取材に対し次期会長選挙には出馬せず勇退する考えを表明した。同会長は、すでに日臨技理事会で勇退の意思を示している。それをうけ、水面下では次期会長選を見据えた地区レベルの動きが活発化している。次期会長選に対して岩田会長は「静観していく」と述べ、会長候補一本化への調整には動かない姿勢を示した。

## 日臨技 臨衛技法一部改正で日医との協議スタート

臨床衛生検査技師に関する法改正を目指す日本臨床衛生検査技師会の岩田進会長は、日本医師会と改正要望事項について調整協議に入ったことを明らかにした。現在、第2回会議の日程を調整中である。初会合をふまえ岩田会長は、日医との協議で検体検査の一部業務制限の問題や生理検査の包括記載方式で政令規定から省令規定変更の是非などを中心に議論を行っているとした。

## 労災病院を再編、37施設の2割程度削減を決定

厚生労働省は8月27日、「労災病院の再編に関する基本方針」を発表した。現在の労災病院（37病院）については労災疾病の臨床研究機能を集約的に担う「中核病院」と、それ以外の専門病院との間で勤労者医療に関する全国的なネットワークを構築するほか、同一の二次医療圏にある複数の労災病院については統合し、機能の効率化、高度化を図るとした。このため現在の37病院については「2割程度削減」することとし、2003年度中に具体的な再編計画を策定する。

## テクノメディカ ジャスダック市場に公開

テクノメディカは9月17日、ジャスダック市場に株式を公開する。公開にあたって實吉繁幸代表取締役社長は、「今後も、臨床検査機器に特化した開発を行い、従来の医療機器とは一線を画すオリジナリティの高い製品を提供していきたい」と述べ、今後も患者サービスの向上をめざしていく考え。

## P S S 3 D型のプロテインチップの開発に着手

プレジジョン・システム・サイエンスは8月14日、3D型バイオチップ「バイオストランド」を用いたプロテインチップの開発に着手し、独立行政法人産業技術総合研究所との共同研究契約を締結した。バイオストランドは、ひも状の基体にプローブを固定し、それを3次元構造とすることで高密度集積を可能としたもの。ストランド上でタンパク質を発現させるという発想によって、これまで困難であったプロテインチップの製作が可能になる。

【MTJ (The Medical & Test Journal) 9月21日号から】

### 共通外部精度評価事業の実施母体は「日医総研」

臨床検査の外部精度評価の統一化事業に関する検討を進めている河野均也氏（日医総研客員研究員、日大医学部研究所教授）らは、共通外部精度評価事業（NEQAS）における具体的な共通外部精度管理調査の実施概要をまとめ、日医総研ワーキングペーパーを発表した。共通外部精度評価事業は、日本医師会、日本臨床検査医学会、日本臨床衛生検査技師会、日本衛生検査所協会が検討してきたもの。懸案となっていたNEQASの実施母体については、法人組織、株式会社などの案が浮上していたが、同ワーキングペーパーでは「当分の間は日医総研が担当していくことが妥当」との見解を明記している。

### 内保連の新代表に齊藤副代表の昇格を決定

日本臨床検査医学会などが加盟する内科系学会社会保険連合（内保連）は9月9日、第94回例会を開き、五島雄一郎代表の逝去に伴う後任の新代表に齊藤寿一副代表（社会保険中央総合病院院長）の昇格を決定した。齊藤新代表は「来春の診療報酬改定という大きな節目のなかで重い職責を与えていただいた。包括医療の促進、医療技術の評価のあり方など、内保連としても大変大きな検討課題を課せられている」とし、次回診療報酬改定にむけ加盟学会の要望実現にむけ全力で取り組む考えを表明した。齊藤新体制では、茅野真男氏（国立病院東京医療センター診療部長）、國島修氏（國島医院院長）、森三樹雄氏（独協医大越谷病院検査部長）ら6氏が副代表として齊藤新体制を支える。

中野日本臨床薬理学会理事長 認定CRCの過渡的措置合格は27人程度

日本臨床薬理学会の認定CRC認定試験が、来夏以降開始される。その過渡的措置として行われた第1回めの認定CRC認定者は27人程度になる見通しであることが明らかになった。9月5～6日、都内で開かれた第3回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2003 in 東京（世話人代表：井部俊子氏）で日本臨床薬理学会の中野重行理事長が報告した。このうち臨床検査技師は2人程度になるもようだ。12月の学会総会で正式に公表される。

厚生省 エイズ拠点病院の半数が薬剤耐性ウイルスの増加を指摘

厚生労働省の「HIV薬剤耐性対策プロジェクト」が9月8日までに国内の拠点病院を対象に行った実態調査で、半数近くの病院が薬剤耐性ウイルスの増加傾向を、治療前と治療中それぞれの段階について指摘していたことなどがわかった。調査は国立感染症研究所エイズ研究センターの杉浦互氏らが8月初旬、国内のエイズブロック拠点14病院に実施し、13病院から回答を得たもの。欧米では薬剤耐性ウイルスを保有する新規感染者が報告されており、日本での実態を把握する目的で、検査体制、検査実績のほか臨床の意見として薬剤耐性の出現状況、薬剤耐性検査の必要性などについて聞いた。

バイオメリュグループ 血小板製剤に細菌検査の実施を呼びかける

バイオメリュグループのテオ・ド・ナトリス産業事業本部インターナショナルプロダクトマネジャーはこのほど来日し、血小板製剤の安全性を高めるために、ウイルス検査とともに細菌検査を系統的に構築する重要性を本紙に明らかにした。現在、国内では、献血血液に対してウイルス検査を実施しているが、細菌検査は行われていない。ド・ナトリス氏は、「細菌検査のために全自動血液培養検査装置を各地域の血液センターに配置し、これら血液培養の検査状況を日赤などがリアルタイムに一元管理することにより、各医療機関が血小板製剤を使用する直前に検査状況をチェックすることで、細菌に汚染された血小板製剤による事故のリスクが大幅に減少する」と述べた。



## オリンパス 生化学検査で1検査課金方式を導入

オリンパス光学工業は10月1日から病院検査部門の生化学検査向けに、1検査項目ごとに課金する検査実績課金方式(PRT)を導入すると9月11日発表した。PRTは、同社が独自に開発したもので、検査に使われる自動分析装置や試薬、消耗品、メンテナンス、その他アフターサービスまですべてをパッケージ化して同社が医療機関に提供し、検査実績数に応じて課金をする。精度管理や再検査に伴う検査はカウントされない。初期投資がかからないだけでなく、1テストあたりのコストが明確になることで、病院検査部門のコストマネジメントに役立てることができるとしている。

## 日立ハイテクノロジーズ 9000シリーズ日立自動分析装置発売

日立ハイテクノロジーズはこのほど、オンライン接続機能により大幅に操作性を向上した臨床検査用自動分析装置「9000シリーズ日立自動分析装置」を開発、国内で発売した。新製品は情報リンク型試薬容器(ロシュ・ダイアグノスティックス)と試薬容器ハンドリングロボット及びオンライン接続機能(サービスはオプション)を搭載し、従来、ユーザが分析装置に手入力していた各検査項目の分析条件を、専用のデータセンターからダウンロードし、かつ試薬容器の架設から廃棄までを自動化することで、試薬の取り扱い操作の手間を大幅に低減した。

=====

JACLaP WIRE, No.63 (2003年10月2日発行)

発行：日本臨床検査専門医会 [ 情報・出版委員会 ]

編集：JACLaP WIRE 編集室 編集主幹：満田年宏

記事・購読(配信)・広告等に関するお問い合わせ先：

〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-9 横浜市立大学医学部臨床検査部医局内

E-mail : jaclap\_wire@yahoo.co.jp TEL:045-787-2721 FAX:045-786-0392

日本臨床検査専門医会ホームページ : <http://www.jaclap.org/>

JACLaP WIRE バックナンバー : <http://www.jaclap.org/wire/index.html#TOP>

\*\*\*\*\*

会員の皆様からの寄稿をお待ちしております！

\*\*\*\*\*

メーリングリスト配信先の変更には

1. 氏名, 2. 現行登録アドレスと 3. 変更希望メールアドレスを添え

てjaclap\_wire@yahoo.co.jpまで「配信先の変更希望」としてお送り下さい。

\*\*\*\*\*